

# 組織的危機と腐敗を深める動労本部

「職場と仕事を守るため」と称し、「三本柱」の推進を唯一の運動に組合員を外向、休職、直営店への派遣にかりたてている動労「本部」革マルは、彼等が牛耳る動労「中央」においても「職場の苦闘を共有する」と称し、労働組合が労働者組合員を処分する「粛清」を開始した。これは、動労「本部」の反労働者性を象徴する出来事であるとともに、全国でわき起こる「本部」不信、批判のまえに組織的危機を深める動労「本部」革マルが見せしめとして行ったものである。当局の先兵・動労「本部」革マルをすべての職場から一掃しなければならぬ。

「三本柱クリアー」「外向」強要に全力あげる動労新潟地本であいつぐ自殺

3月28日に開催された動労第3回全国戦長会議は、3/4月を「三本柱」の組織強化月間とし、雇用の確保を全国大会までに確定するため、さらに実効をあげる取り組みを強化する方針を決定した。

すでに、動力車新聞をはじめ、動労各地本、支部、青年部段階における機関紙類は「ホテルへ〇名」「いすゞへ〇名派遣」なる「戦果」を競い合う「大本営発表」になりかかっている。職場では役員が連日、連夜、組合員をつかまえては「外向」「休職」のオルグならぬ「勧誘」を行い、反発する組合員は徹底していじめぬかれている。

「国鉄を守るため」と称して合理化に率先協力し、「過員」づくりの手助けをしたうえで、その「過員」を国鉄から放り出す先兵になり下りながら、「派遣者の仲間と家族の苦闘を組合員のものとしろ」とはよくいえたものだ。

いまや、組合員の怒りは頂点に達している。その氷山の一角として、動労大阪地本をはじめ脱退者が続出しているが、それだけではなく、東京地本では大量の組合費納入拒否が発生し、また、動労革マルが牛耳って、三本柱クリアー運動に血道をあげている動労新潟地本では昨秋からのおお半分の間に3名の組合員が自殺したと言われている。

タイムレコーダー打刻を理由に処分

こうした事態に危機感を抱いた動労「本部」革マルは、ペテン的に「組合員の苦闘を共有する」と称する「綱紀粛清」により、組合書記13名の処分を強行した。

すなわち、「タイムレコーダー」導入に対する反発も含め、書記仲間で行ってきたタイムレコーダーの「代打刻」がヤリ玉にあげられ、処分理由にされている。書記に対し次の処分が行われた。

- 依願免職……1名 ● 減給 1/10……4名
- 減給 1/10……2名 ● 減給 1/10……2名
- 戒告……2名 ● 厳重注意……2名

動労「本部」革マルは、書記の行為を「仲間を裏切る反組織的行為で当然の処分」と主張し、なんと労働組合の名をもって労働者の首切りを強行したのである。革マルの冷酷さ、反労働者性を見事に示しているではないか。

「職場規律」「三本柱」に反対する組合員への見せしめ  
動労「本部」革マルは、同時に特執3名に対する処分も行っている。例えば、

「飯酒の際、書類の入ったカバンを忘れ警察に拾得された」中村辰夫、●「勤務中無断で私用のため職場離脱した」長江唯志、●「二日酔のため業務に支障した」山崎洋に、「謹慎一週間」を命じている。

これは、反労働者の方針ゆえに腐敗、墮落した革マルの実態を暴露するものであると同時に「職場規律」に違反した組合員―「三本柱」に反対する組合員は「労働の苦闘をふみじめる反組織分子」として断じて許さないと決意を示す、みせしめ処分である。

われわれは、このような反労働者集団から分離独立したことの正しさをあらためて確認できる。彼等の追放・一掃にむけ、さらに奮闘しよう。